最近の国内出張と海外出張事情

陸では、未だ地域差はあるものの新幹線や高速道路が全国に張り巡らされ、遠隔地の主要都市間の移動には航空機使用が日常的になり、さらに近年では時間に余裕がある旅客層を対象としたクルーズ船旅行が世界的に広まり、本県の港でも一流ホテル並みの豪華で巨大なクルーズ船の入港が年々増加し、受け入れ体制の整備が進められています。

そのような中で、我々公務に携わる者の出張形態も大きく様変わりしています。

一言で言うと、交通体系が便利になるに従って、時間に余裕がなく、せわしく走り回らなければならなくなっているようです。

民間企業の社員も各種の個人事業主や自由業の方も同じ状況で、時代の進歩とともに、時代に合わせた仕事の仕方が必要で、当然と言えばそのとおりですが、とにかく移動という面では慌ただしくなったことは事実です。

私が昭和４７年に県職員採用となりしばらく経って、東北新幹線、秋田新幹線、新秋田空港、秋田自動車道など本県に高速交通時代が訪れる前までは、県内出張でも県境部の市町村には泊まりがけ、東京出張は会議等の時間設定により２泊３日という場合もあり、ましてや九州や四国での全国会議などでは往復移動に４日かかるということもありましたが、今では１泊２日という駆け足出張が可能となりました。

また、海外出張はかつては極めて希なことで、昭和５０年頃に県内の誘致企業が次々韓国に移転し県内雇用が失われ始め、当時の担当課長が韓国の実態を視察に行こうとした際には、盛大な壮行会と帰国報告会をするなど大事であったことを記憶しています。

昭和３５年に故小畑勇二郎元知事がブラジルの秋田県移民県人会創立に合わせ激励のために南米出張した際は、何回も飛行機を乗り継がなければならない時代で、なんと４２日間に及んだという記録が残っています。

ちなみに私が一昨年、当時とほぼ同行程でブラジル、アルゼンチン、パラグアイを回った際には、急ぎ足ではありますが１２日間でした。

また今では、交流人口増加による経済波及を目指したインバウンド誘客宣伝、県産品輸出に向けた海外でのフェアへの出展、各種商談会、友好交流地方政府との定期交流など、常時、職員達の海外出張は当たり前、国内遠隔地の出張と同じような感覚になってます。

私もトップセールス等のため、年に３回程度海外出張しますが、常に日程びっしり、時間的に余裕のある出張などは皆無に近く、日帰りの韓国出張ということまで経験しました。

国土や地球が高速交通体系の進展で狭くなる分、「外遊」という言葉は過去のものとなり、国内・国外問わず業務出張はますます慌ただしくなる一方のようです。